

会員の広場



メンターと三人のリーダー

廣中 聰（東京）

俳句の句会後の二次会で、キッシンジャー、アイゼンハワーの大成に付いてメンターの果たした役割が印象的と話したところ、メンターとは聞かれました。

ホメロスの「オデッセイ」に登場する老賢人メンターを語源とする、優れた指導者、

恩師、信頼のおける相談相手を言うのだそうです。その事例を二人に加え日本の例から見てみます。

キッシンジャー（後Kと称す）は、ドイツに生まれ15歳の時、ナチスの迫害を逃れ米国に移住。二次大戦勃発後招集され、二等兵時代、Kはその知的潜在能力を亡命ユダヤ人の知識人F・クレマーに認められ、歴史教育など言葉による多くの指導を受けることになります。

Kは、「私の人格形成期に最も大きな影響を及ぼした人物」と述べています。アカデミイの世界での大成では、ハーバード大学長W・エリオットの指導が大きい。西洋哲学に並行して、古典文学からドストエフスキーに至る

幅広い課題をあたえました。

次にアイゼンハワーです。カンザスに育ち、陸軍士官学校に入学します。軍人としては凡庸な経歴でしたが、陸軍きつての教養人F・コナー少将に見いだされ、副官として2年半徹底した薫陶を受けます。軍事学（特にクラウゼヴィッツの「戦争論」、哲学に加え文学などあらゆる古典を絶え間なく読みます。メンターとしてマーシャル参謀総長もあげられます。試しながらアイクを認め、初代作戦部長、欧州総司令官に引上げます。

中佐から元帥まで、わずか3年10カ月で上り詰めました。米国の戦争期指導者の大変柔軟な人材登用は驚くべきで、日本の軍閥の人事と好対照です。

日本にメンター関係がいるかと考えました。陸奥宗光と原敬の関係がそうだと思います。なお上記二者の勉学期になぞらえるなら原敬のそれは仏公使館書記時代です。

帰国後農商務省入省。陸奥宗光が、米国公使より帰任後大臣となり、二人が出会います。メンター関係については、大磯陸奥邸への最後の訪問時の原敬日記から。「余は数年来、公事においても私事においてもほとんど（伯と）相謀らざる事なきに付き此機に及んで初めて聞かざるも余は之を熟知せり」心の中で別れを告げ室外に出るも、呼び戻され「伯曰く、かの地（原敬大阪毎日編集総理就任）に行きて施すべき方略については尚を聞きに來たまえと」。